

もっと世界に目を向けよう！

名前 徳山 敬倫

学校名 海老名小学校

◆担当教科：全教科 ◆実践教科：総合的な学習の時間 ◆時間数：11時間 ◆対象学年：4年生 ◆対象人数：32名

指導案

(1) 実践の目的

世界の子どもたちの生活の様子や日本と異なる食糧事情、開発途上国が抱えている問題について伝え、自分たちの生活が恵まれていることに気付かせたい。日本と開発途上国さらに、自分たちの生活を振り返ることによって豊かな生活に感謝するとともに、身近なことでできることは何かを考えさせたい。

(2) 授業の構成

時間	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「世界のことを知ろう」 世界の状況を知ることによって、海外に興味をもつ。	「世界がもし100人の村だったら」を使い、世界の人々の様子について学ぶ。	・「世界がもし100人の村だったら」 ・JICA 資料
2	「世界とつながっている日本」 生活の中で世界とのつながりを見つけ、自分たちの生活と外国が深い関わりがあることに気付く。	食べ物や物などで外国からの輸入に頼っているものがあることを知ることによって、外国とのつながりを感じられるようにする。	・JICA 資料 ・写真
3	「世界の食料」 世界の食糧問題を学ぶことによって、自分たちにどんなことができるかを考える。	日本の食料自給率から食糧問題を学び、自分たちの食事について振り返る。	・JICA 資料 ・写真
4	「世界の水」 世界の水問題を学ぶことによって、自分たちにどんなことができるかを考える。	世界の水事情を学び、普段使っている水の大切さに気づき、自分たちの生活を振り返る。	・JICA 資料 ・写真
5	「ペットボトルキャップはどうなるんだろう」 ペットボトルキャップを集めることによってワクチンを開発途上国に送ることができることを知り、自分たちにどんなことができるかを考える。	学校で取り組んでいるペットボトルキャップ集めがどのような目的で行われているのかわかり、世界の人々の健康状態を学ぶことによって、生活の中でできることを考える。	・JICA 資料 ・写真

6	「世界の学校」 学校に行くことができない子どもたちや日本とは異なる学校事情を知ることによって、自分たちの生活を振り返る。	世界の学校事情や子どもたちの様子を知り、自分たちの生活が恵まれていることに気づき、生活について振り返る。	・ JICA 資料 ・ 写真
7	「カンボジアについて知ろう」 カンボジアという国について知り、今まで学習してきたことを踏まえながら考える。	カンボジアの食事・水・健康・学校などについて知り、自分たちの生活との違いに気づき、自分たちにできることを考える。	・ JICA 資料 ・ 写真
8 9	「カンボジアについて調べてみよう。」 カンボジアや開発途上国などの外国について調べてみたいことをインターネットや本を使って調べ、外国の状況や文化を知るとともに理解を深める。	カンボジアや開発途上国などの外国の状況や文化などで自分が興味をもっている内容について調べてみる。	・ 図書室にある国際理解関係の本
10	「カンボジアと日本のつながり」 日本とカンボジアのつながりを様々な支援を通して考える。	日本からカンボジアに対して支援していること、カンボジアから日本に支援していることを知り、二つの国が互いに協力し合っていることに気付く。	・ JICA 資料 ・ 写真
11	「カンボジアで活動している日本人」 カンボジアでさまざまな活動をしている日本人について知り、日本の海外支援の取り組みを学ぶ。	様々な支援をしている人々の活動を紹介して、日本の技術援助について理解を深めると共に、日本の良さについても考える。	・ JICA 資料 ・ 写真

授業の詳細

1時間目：「世界のことを知ろう」

「世界がもし100人の村だったら」を使い、世界の人々の状況について学ぶ学習をした。

- ① 世界地図を見せながら、世界の人口についてクイズ形式で考えさせた。ニュースなどを見て最新の世界人口の数を知っている児童が数人いた。
- ② 世界の人口をクラスの32人にして考えると男と女のどちらが多いか考えさせた。この質問については、ほぼ同じ数だという意見がほとんどだった。
- ③ 世界で話されている言語は何かを質問した。英語という意見が出たが、中国も人口が多いという理由で中国語という意見も出てきた。スペイン語やヒンディー語なども多くの人が話している言語だということを伝えると知らないという児童もいた。そこで世界地図でどの地域でどの言語が話されているかを確認した。
- ④ 文字が読めないという問題があるのかということを考えさせた。ネパール語で書か

れたカードを見せて、役割カードに書いてある通りに行動してもらった。それから、世界で文字が読めない人の割合を伝えると、児童はかなり多いと驚いていた。その後、薬・水・毒という3つのペットボトルを使ったワークショップを行った。文字の意味がわからないと、生活の中で不便なことがあるという意見が出てきた。

- ⑤ 世界の地域ごとに分かれて土地の面積を表した紐の中に入らせ、人口密度について考えさせた。人口密度が高いと一人あたりの土地の大きさが狭くなるということを伝えるとアジア地域の児童から「嫌だな。」や「ほかの地域はずるい。」という意見がでた。
- ⑥ カードによる役割分担で栄養が足りている児童と足りていない児童に立ってもらい、地域ごとの格差を確認した。栄養による地域間の違いがはっきりと出ていて、児童は驚いていた。
- ⑦ 世界の豊かさを比べるために、地域ごとの食料やお金などを水で表してグループごとに渡した。そして、一人ひとりに紙コップを配り、その水を各グループに全員が同じ量となるように分けるよう指示をした。アジア地域のグループでは水が少なく、分けることができなくなってしまった。地域ごとにコップの中の水の量を比べた際、アジア地域の児童からは、グループを移動したいというような意見も出てきた。

児童の感想

- ・ 給食で残すのは、いけないと思った。できないとは思うけど、アジアとかの「ゆたかさ」を、対等に分けてあげたいなと思った。
- ・ 日本がこんなに豊かって知って、給食を残すぐらいならあげたいと思った。アフリカなどの人たちは給食なんてあったら、すごく喜ぶなと思った。字が読めないんだったら付き添ってどれを買うかなど教えたい。
- ・ 日本はしあわせだなと思った。貧しい人たちに食べ物などをたくさん食べさせたいなと思った。
- ・ 前テレビで貧しい人たちにきれいな水を飲ませていて、すごく「おいしい」と言って喜んでいたのでもっと飲ませてあげたい。
- ・ 日本は食べ物が豊富で、給食を残しても平気だけど、世界の貧しい人たちは、食べ物がなくて死にそうになっているから、食べ物を分けてあげたい。今度からは、あまり給食を残さずしようと思いました。
- ・ 豊かな人はペットボトルに水が余るほどありましたが、貧しい人たちは水が1cmぐらいしかありませんでした。そして、学校がどれだけ大切かすごくわかりました。字が読めないと薬を買いたくても毒を買ってしまうかもしれない危険があるからです。

2時間目：「世界とつながっている日本」

「どうなっているの？世界と日本」（JICA 資料）を使い、日本人の生活と世界が深くつながっていることを考えさせた。

- ① 日本で作られている食べ物しか食べられなかったら、一日の食事のメニューはどのようになるかを考えさせた。児童は品数の少なさに驚いていた。また、毎日これだと嫌だなという意見も出た。
- ② お好み焼きを例にして、材料がどこから来ているかを考えさせた。えび、青のりや鰹節は日本で作られていると思っていたようで、多くの児童から意外だという反応があった。また、外国から食べ物を分けてもらわないと日本の食べ物であるお好み焼きが食べられないのは、変だという意見もでた。

- ③ 生活の中で使われている物で外国で作られている割合が50%以上のものをクイズ形式で考えさせた。ゲーム、自転車やテレビなどに外国製の表示を知っている児童が多かった。しかし、割合の高さにはかなり驚いていた。
- ④ 石油で作られている物を伝え、身近な物の多くが石油からできていることを確認した。石油も海外から輸入されていることを知り、児童はシャンプーやリンスが使いなくなってしまい、生活に困るという意見が出た。
- ⑤ 日本が輸入している物の多くが開発途上国からであることを伝え、児童から開発途上国に日本が支えられているという意見が出た。
- ⑥ 開発途上国の問題についてクイズを行った。カンボジアで撮ってきた写真を見せながら開発途上国の現状を説明した。児童にとっては自分たちの生活と違う開発途上国の状況に驚いていた。

- ・ 日本はとても便利な国だなと思いました。外国から分けてもらっているのなら日本からも他の国にも何か分けてもいいんじゃないかと思いました。
- ・ 日本と世界は違いがあまりないように感じられますが、今回の授業ですごく違いがあるのだと思いました。何かしてあげられるのなら何かすごくしたいと思いました。子どもが働くということを私はできないから、世界の子どもは強いのではないかと思いました。
- ・ クイズでアフリカは豊かじゃないのがわかりました。
- ・ 私は開発途上国のことをテレビで見たことがあります。開発途上国の子どもは泥水を飲んでいてと言っていました。
- ・ 貧しい国がこんなにあるなんて思っていませんでした。世界と日本はすごく関係していることがわかりました。
- ・ 外国では餓えて死んでしまう子どもいるから、そんな子には自分のご飯をあげたいです。
- ・ 子どもでも朝早くから働いているというのはびっくりしました。世界からそのような子が一人もいなくなってほしいです。

3時間目：「世界の食料」

「世界の食料」(JICA 資料)を使い、開発途上国の食糧事情について考えさせた。日本の食糧事情と比べたり、食糧不足の原因についても話し合わせたりした。

- ① 天ぷらそばの材料がどこから来ているか考えさせた。前時の授業より外国から多く輸入されていることを児童は予想していた。
- ② 日本の家庭ごみの量を伝えた。ごみの中で約4割がまだ食べられるのに捨てているということを伝え、児童からもったいないという意見が出た。
- ③ 開発途上国には飢えて苦しむ人がたくさんいることを伝えた。これは、テレビ番組などで知っている児童も多かった。しかし、飢えが原因でどんなことが起こるかを考えさせると児童から病気になるという意見が出た。さらに、そのことが働いたり、勉強したりできなくなることを伝え、食糧がないと大変なことになるという意見が児童から出てきた。
- ④ 食糧不足の原因は何かについて考えさせた。砂漠化という意見や前時に学習した先進国や新興国の輸入が原因であるという意見が出た。また、バイオ燃料のことを伝え、環境に良いことが食糧不足の原因の一つであることに驚いていた。

- ⑤ 食糧不足で困っている国に世界がどのような取り組みをしているかを伝えた。CMなどで知っているという児童もいた。
- ⑥ 自分たちの生活の中では、どのようなことができるかを考えさせて発表させた。児童からは給食など普段の食事を残さないように食べるなどの意見が多く出た。

児童の感想

- ・ 日本の人が捨てている家庭から出る食べ物のごみはこんなにも多いんだと私は思いました。
- ・ 私は他の国の人たちに何かしてあげたいので、私は日本全国の人たちに100円でもいいからお金を寄付したほうがいいと思います。
- ・ 日本は他の国から食べ物をもらっていて幸福だけど、他の国のことを考えたら少し申し訳ないと思います。
- ・ 日本はすごく贅沢をしているんだなと思いました。日本はいろいろな国から食料とか、いろいろ助けてもらっているのに、逆に日本は助けてあげたらいいんじゃないのかと思いました。
- ・ ぼくは世界の人たちのために感謝を込めて残さず食べることがいいと思いました。こんなに飢えて死んでいる人がいるなんてかわいそう。
- ・ 日本の料理も外国の材料を使っているとは知りませんでした。
- ・ ぼくはアフリカの話聞いて、少しでも食料をあげたいです。ぼくは食料のない国の人たちの死を防ぎたいです。
- ・ 日本は外国からたくさん食料をもらっているのに、いっぱい捨てていてもったいないなと思いました。

4 時間目：「世界の水」

「世界の水問題」（JICA 資料）を使い、開発途上国の水問題について考えさせた。

- ① 人間が生活するのに一日にどのくらいの水の量が必要かを伝え、日本人が一日に使う水の量を知らせた。児童は普段使っている水の量が予想以上に多いことに驚いていた。
- ② 地球上の水のうち飲み水に使える割合がどれほどかを伝えた。その量の少なさに児童はとて驚いていた。
- ③ 開発途上国の水事情について伝えた。十分に水を使うことのできない国が多くあることに児童は驚いていた。そんなに少ない水の量で生活できるのかと疑問をもっていた。
- ④ アフリカのスーダンで水汲みのために学校に行けない子どもの話を伝えた。児童からは、かわいそうという意見や自分がそうだったらすごく嫌だという意見が出た。
- ⑤ 安全ではない水を使うと、どのようなことが起こるかを考えさせた。病気になるという意見がすぐに出てきた。開発途上国の病気のうち80%が安全ではない水が原因と伝えたとそんなに多いのかという反応があった。
- ⑥ 世界の水を守るためにできることを伝えた。外国の食料を輸入すると育てるために使った水を輸入していることや温暖化が水の生まれる環境を崩しているということを伝えるとそのようなことが関係しているとは知らなかったという反応があった。

児童の感想

- ・ 水不足で死んでしまう人がこんなに多いとは思いませんでした。
- ・ ぼくが一番びっくりしたことは子どもが2時間かけて水を汲み、2時間かけて家に帰るということです。水汲みで学校にも行けないから、かわいそうだと思います。
- ・ 水不足の国がたくさんあるのは、びっくりしました。私はそんな国にちゃんとした水を分けてあげたいと思います。無料であげれたらいいなと思いました。日本は実際にそんな国に食べ物や水をあげているのかなと思いました。
- ・ 日本人が貧しい国へ行き、お店や学校などいろいろ作りお金をたくさんあげて水不足の人を一人でも減らしたいです。
- ・ 水が飲めない人もいるので、その分水を大切にしなければいけないと思います。
- ・ 安全な水を飲めないで生活している人は、よくそこで生活する力があって生きていけてすごいなと思いました。

5時間目：「ペットボトルキャップはどうなるんだろう」

学校で取り組んでいるペットボトルキャップ集めを取り上げ、何のためにやっているのかということを導入で考えさせた。そこから、開発途上国の健康事情や医療事情を「いのち、輝け！」（JICA 資料）を使って伝えた。

- ① ペットボトルキャップ集めの取り組みは、何のためにやっているのかを児童に質問した。すると、病気を防ぐための注射になるという意見が出た。そこで、感染症について話し、開発途上国で多くの方が感染症によって亡くなっているということを伝えた。児童は感染症は怖いという反応があった。
- ② HIV/エイズや結核、マラリアという感染症について伝えると、知っているという児童が何人かいた。
- ③ なぜ開発途上国で感染症が流行するのかということ伝えた。また、日本では予防接種により感染症を防いでいるということを伝えると、開発途上国ではどうして予防接種をしないのかという意見が出た。そこで、開発途上国では経済的に受けることができないことや病院が少ないということ伝えた。
- ④ 感染症が流行すると社会に悪い影響を与えるということ伝えた。
- ⑤ WHO やユニセフが予防接種を広めるための支援をしていると伝えた。すると、日本は何か支援をしていないかという質問が児童から出た。そこで、蚊帳を送っているということ伝えると、日本の昔からあるものが役に立っているということに驚いていた。

児童の感想

- ・ 今私ができることはエコキャップを集めることだと思います。今すぐに外国に行ってできることはできないけど、これだと今の自分にもできるからです。
- ・ 感染症を防ぐために予防接種をできるようにペットボトルキャップがたくさん集まって一人でも助かったらいいなと思います。
- ・ 感染症にかかる人の多くが開発途上国の人たちだと知ってびっくりしました。
- ・ 開発途上国の方は病院にもなかなか行けなくて、予防接種を受けることもできないのは不便だなと思いました。日本人が開発途上国の方のためにできるとしたら、エコキャップ運動をなるべく続けていくことだと思います。
- ・ エコキャップを集めて世界の人たちを助けて、いつかは世界中の人が幸せになったらいいなと思います。

児童の感想

- ・ 日本が蚊帳を寄付していたり、栄養のことを教えている会社の人がいったりすることが分かった。感染症がない地球にならないかと思う。
- ・ もっと世界みんながお金を分け合ってどの国も平和になってほしいなと思います。
- ・ 日本は何もしていないと思っていたけど、実際は蚊帳などを送っていて日本はいい国だと思いました。
- ・ 今日の授業では僕の知らない病気があるのを知りました。ぼくもペットボトルキャップを集めて予防接種を作るのに協力をしたいです。
- ・ 日本はエコキャップを集めていて外国にいいことをしていることがわかりました。

6時間目：「世界の学校」

「学校に行けない世界の子どもたち」（JICA 資料）を使い、開発途上国の学校に行けない子どもの現状について考えさせる。

- ① アフリカなどには学校に行けない子どもがいるということを伝え、どうしてかを考えさせた。今までの学習で働いているからという意見や水汲みをしているからという意見が出た。
- ② 世界で学校に行けない子どもは何人いるかをクイズ形式で考えさせた。日本人の人口とほとんど同じ数であるということを伝え、児童は驚いていた。
- ③ ほかにもどのような理由があるか考えさせたが、児童からは学校がないという意見しか出てこなかった。学校に行けない主な理由を伝え、兵士になっている子どもがいるということに一番反応があった。
- ④ 学校に行けないと、どのようなことが起こるかを考えさせた。仕事ができなくて生活に困るという意見が出た。アフリカやカンボジアの識字率の低さを伝え、児童は驚いていた。
- ⑤ 日本が行っている支援について伝え、日本ってすごいという意見が出た。

児童の感想

- ・ 学校に行けなくて、商売しなければいけないなんて自分だったら嫌だなと思った。
- ・ 世界に学校に行けない人が日本の人口と同じぐらいいるというのを聞いて、世界には勉強をしたくてもできない人がたくさんいるんだと思った。

7時間目：「カンボジアについて知ろう」

カンボジアについて学習してきたことを食糧事情や健康や教育問題についてまとめた。

- ① カンボジアの写真を見せ何をしているところか考えさせた。水を飲んでいるところだと伝え、汚れている水を飲んでいるというのに驚いていた。
- ② 水甕の写真を見せて雨水を飲料に使う人もいることを伝えた。トイレなどの写真を見せて日本と違うトイレに驚いていた。また、一部水道などの整備が進んでいることも伝えた。
- ③ 髪が茶色の子どもの写真を見せた。栄養不足で髪が茶色になっていることを伝え、カンボジアには栄養不足の子どもがたくさんいるのかという質問が出た。
- ④ 病院が少ないという状況について伝えた。多くの子どもが病気で命を落としていたり、薬も病

院に行ってももらえないということを伝えると驚いていた。

- ⑤ 学校の写真を見せ一つの机にたくさんの子どもが座っている写真を見せた。机の数が子どもの数とあっていないことについて児童は気付いていた。さらに、年齢が異なっていることにも気付いていた。教科書がない子どもいることに気付いていた。
- ⑥ 識字教室や孤児院で勉強を教えている写真を見せた。勉強をする環境が日本とかなり違うということに児童は驚いていた。
- ⑦ 谷川俊太郎の「そのこ」という詩を聞かせた。児童は静かに聞いていた。

8・9時間目：「カンボジアについて調べてみよう。」

カンボジアや開発途上国について本やパソコンを使って調べた。食事などの文化について調べる児童もいた。航空写真を調べて、日本と比べている児童もいた。町の規模の違いや建物の違いがあることに気付いていた。また、日本の取り組みについても調べていた児童もいた。

10時間目：「カンボジアと日本のつながり」

日本とカンボジアの関係について考えさせた。今までの学習の中で扱った内容以外の取り組みについて考えようとする児童もいた。

- ① 日本とカンボジアのつながりについて考えさせた。今までの学習で日本の支援について知っていたので、児童からいくつか意見が出てきた。
- ② カンボジアに対する支援がかなり多いということに児童は驚いていた。また、カンボジアへの支援が世界で一番ということも驚いていた。
- ③ NGOの取り組みについて、写真を見せながらどのような取り組みをしているかを伝えた。カンボジアの様々な問題に日本からの支援がされていることに日本はすごいという意見が児童から出た。
- ④ シェムリアップの小学校の写真を見せると、制服を着ていて日本と同じだという意見が出た。カンボジアと日本の学習内容の違いや教育に関する支援について伝えると、児童からかなり違うという反応があった。
- ⑤ カンボジアの紙幣を見せながら、日本の支援がカンボジアの紙幣になっていることを伝えるとカンボジアの人が日本に感謝をしているという反応があった。
- ⑥ 東日本大震災の義援金がカンボジアから送られたことを伝えると驚いていた。児童からはカンボジアの人は自分たちの生活が大変なのに優しいという反応があった。
- ⑦ 自分たちにできることはどんなことがあるか考えさせた。児童からは寄付やエコキャップなどを集めるという意見が出た。また、大人になったら NGO に参加したいという児童もいた。食べ物を残さず食べることや水を無駄にしないという自分たちの生活を振り返る意見も出た。

11時間目：「カンボジアで活動している日本人」は、まだ実施していません。

成果と課題

成果

- ・ 児童はカンボジアなどの開発途上国について興味をもって、授業に取り組んだ。授業では児童から質問が出てくる場面も多かった。そして、個人個人で調べる際には、文化などについても興味をもち取り組むことができていた。
- ・ 自分たちに何ができるかという寄付や物をあげるといった意見が多かった。しかし、普段の生活の中で小学生である自分たちにできることについて聞くと様々な意見が出た。特に、給食の食べ残しを少なくしようとしている児童やペットボトルキャップを持って来る児童というように進んで行

動する児童が出てきたのは、大きな成果である。

- ・ 授業の中では児童から初めて知ったという意見や初めて聞いたという意見が多かった。授業が進むにつれて、もっと知りたいという意見や次のカンボジアの授業はいつするのかという質問があった。児童が興味をもてる内容で授業をできたと感じた。

課題

- ・ 開発途上国やカンボジアについて興味をもつことができたが、それらの国の現状よりも食べ物などの方について調べる児童が多かった。授業を行った児童が4年生ということもあり、少し内容が難しかったのではないかと考えられる。難しい言葉については説明などを行ったが、さらにわかりやすく伝えられるような工夫が必要だった。
- ・ カンボジアや開発途上国のよさについて伝えたが、貧しい国というイメージが強く、かわいそうだという感想をもつ児童がいた。それらの国や人に対してマイナスの印象をもたせてしまったかもしれないと感じた。開発途上国を授業で扱う難しさを感じた。現状を把握した上で自分たちができることへつなげていく指導のあり方の重要性を感じた。
- ・ 開発途上国やカンボジアのことを授業で取り上げていくと、調べなければいけないことがたくさんあった。授業を考えていく中でまだまだ自分自身が知らないことが多いと感じた。さらに、自分自身が開発途上国について知っていくことが授業作りで必要だと感じた。

(3) 参考資料

① 現地で収集した資料



プノンペンの子ども



物売りをする子ども



識字教室の様子



識字教室の生徒



カンボジアのトイレ



ホテルのお風呂とトイレ



ホテルのベッド



台所の様子



ご飯を炊く女の子

